



2009年9月27日土曜朝10時、第20回三鷹国際交流フェスティバルが井の頭恩賜公園西園で行われました。

主催は(財)三鷹国際交流協会(略称MISHOP)で、当東京三鷹RCは、21年前のMISHOP立ち上げ準備から助言者として関わったことから現在も協賛団体として相互の協力体制を継続し、この日は地域交流エリアでの子ども達向け体験イベント<ドラムサークル>を開催しました。

来場者数40,000人を超える！

フェスティバル会場は、世界の地域ごとにゾーニングされ、身近な地域団体による異文化紹介や物販、飲食、スポーツ、ゲーム等と、ポーランドやイスラエル大使館による特産品の紹介やNGO・NPOによる活動デモンストレーションが行われ、その数約70団体が参加しました。また、大型ステージでは世界のダンスや音楽など、国際色豊かなパフォーマンスが披露され、多くの来場者が楽しみました。

地球を叩く！

私たちのドラムサークルが入り口近くのブースで、パーカッションでリズムを取り始めると、親子連れが続々と集まってきました。ジャンプしながら叩く子や次々と打楽器を変えながら叩く子と自由に楽しいセッションの始まりです。そして<ファシリテーター>と呼ばれるガイドがサークル中心で進行を始めると、参加者はその身振り手振りに注目、音の波が俄仕立ての大合奏となり、クライマックス、そして一気に終了。全員で共有したわずかな時間に達成感を感じ、みんな良い笑顔。極めて健康的な音楽空間です。

結果終了の午後4時でも子どもたちがたたき続けるほどの状態でした。

私たちのイベントは正門の近くということもあり、パーカッションでリズムを始めるとそのサークルには見る見るうちに子どもたちが集まり、自由に楽しい国際色豊かなセッションが始まりました。

特にファシリテーターによるガイダンスがサークル中央が始まると、参加者全員その身振りに注目、音の大波小波が俄仕立てのコンサートとなり、やがてクライマックス。一気に音を止めると、その達成感に思わず笑いが浮かびます。極めて健康的な音楽活動です。終了の4時近くになってもなかなか子どもたちは去りがたく、私たちも心残りでしたが心の中で「また、来年・・・」とつぶやき、短くも長き国際交流はタイムアウトを迎えました。



<東京三鷹RCとドラムサークル>

ドラムサークルに対する当クラブの取り組みは2006年からで、若手会員たちからの熱心なアプローチでスタートしました。特にまとめ役を果たしたM会員は学生時代にプロのドラマーを目指したという筋がねいりで、曰く「ドラムサークルは、人々の心を開き心身ともに元気になる、そして人生を豊にするリズムによる新しい音楽スタイルであり、言葉が不要なコミュニケーションです。なにより楽器経験は一切不要です。」そしてその普及目的を当クラブでは《子どもの教育》→リズムを共有することで心を開き、一体感になることで満足感を得られ元気になる、結果→<地球を叩き！いじめを叩き出そう！>としています。

現在この活動は全国レベルに広がりを見せ始め、最近ではTVや新聞等でコンスタントに取り上げられるようになりました。当クラブの普及活動も、市内小学校や商工会、音楽関係NPO等からの依頼が緩やかに始まり、出前でのドラムサークルも行うようになっていきます。なお当クラブでは奉仕プロジェクト事業の一環として同好会の位置づけで活動を行っています。

皆さんも叩いてみませんか？

おそらく皆さんは、<阿波踊り>御存知ですね！そうです、<踊る阿呆に見る阿呆～同じ阿保なら踊らな損損>です。ドラムサークルは理念とか決まりごとを超越した分野なので、観賞に徹すると「苦手回路」が働く人もいます。しかし、一緒に叩くと回路は変わります。棒をはずして楽しめます。

言語を必要としないこのコミュニケーションは、言語を超越して人を受け入れることができます。

一度体験してみませんか？



*ドラムサークルとは？・・・参加者が全員輪になって「ファシリテーター」と呼ばれるガイド役の進行により、パーカッション(打楽器)による即興のアンサンブルを楽しむものです。参加者同士の一体感や達成感により、ストレスの発散からの健康維持、地域や学校、職場等での友人づくりやコミュニケーションの促進等の効果があるといわれています。また、年齢や音楽の経験は問わない事から、高齢の方や障がいのある方たちに対するレクリエーションセラピーの有効な方法のひとつとしても注目を集めています。